不動地区　洪水避難支援マップ

2021年2月

マップの使い方と大雨・冠水時の避難方法

「不動地区 洪水避難支援マップ」は、平成16(2004)年台風23号に伴う大雨などにおいて、不動地区で発生した主な冠水道路を示したもので、大雨時の安全な避難を考えるマップです。裏面の**「不動地区 地震・津波避難支援マップ」**と併用すれば、大雨時に南海トラフ巨大地震が発生した場合の避難路や避難先を考えることもできます。

大雨・洪水が予想される場合は、早め(明るいうち)の避難が重要です。夜間や急激な降雨では危険箇所が見えなくなるので動かない方が安全です。やむを得ず冠水した道路を使って避難する際は以下の点に注意しましょう。

① 単独避難は避けます。手を繋いで歩くことは行動の自由を奪うので、お互いの体をロープで繋いで避難します。お年寄りや体の不自由な人などは背負い、幼児は浮袋、乳児はベビー用バスを利用するなど安全を確保します。

② 運動靴を履いて避難します。長靴では中に水が入った場合に動けなくなります。もちろん裸足は厳禁です。

③ 探り棒を持って進行方向の安全を確かめながら道路の中央を歩きます。水面下にはどんな危険が潜んでいるか分かりません。止まっている水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm程度ですが、流れがある場合はもっと浅くなります。避難所までの移動に危険が伴うと思われる場合には、近くの高台や建物の2階以上への垂直避難も考えましょう。

冠水した道路の危険性

地点A　平常時

地点B　平常時

地点A　冠水時

地点B　冠水時

平成23(2011)年台風15号では、徳島市で観測史上３位となる日雨量430mmを観測しました(最大時間雨量は64mm)。左の2組の写真は、その大雨の前後で撮影された徳島市内の住宅地の様子です。上は平常時、下は冠水時の写真です。

地点Aでは道路脇に比較的大きな排水路が見えますが、転落防止柵がなければ道路と見分けがつかず、転落の危険性が大きいことが分かります。

氾濫した濁っている水は、水深が浅くても道路の傾き・段差や障害物、マンホール等を全て隠してしまいます。特に夜間では道路の様子が全く分からなくなり危険です。

記号の説明

- 指定避難所
- 危険箇所(大雨浸水に関わるもの)
- 防 防災倉庫・備蓄倉庫
- 0.3 地盤標高(海抜(m))
- 15 主要道路（県道）
- 大雨で冠水しやすい道路区間
  地域の多数の人が避難に利用する道路のうち、冠水しやすく道路脇の側溝や排水路等が隠され、避難に注意を要する道路区間

車を使った避難の危険性

平成23年台風15号時の
徳島市内の様子

車で浸水箇所を通過するのは非常に危険です。側溝等に落輪すると動けなくなります。また、浸水深が30cmを超えるとマフラーから水が逆流してエンジンに水が入ります。70cmを超えると水圧のためにドアが開けにくくなり、車から脱出できなくなる可能性もあります。

製作：不動コミュニティ協議会、不動地区自主防災連合会、徳島大学 環境防災研究センター、徳島大学理工学部 河川・水文研究室、徳島市
問合せ先：不動コミュニティセンター(088-631-9649)
「この地図は、徳島市長の承認を得て、 1/2,500地形図を複製したものである。（承認番号　令2徳島市指令都政第249号）」